

平成 18 年
4 月 27 日

病害虫発生予報 5 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

5 月 29 日から全ての農作物に残留農薬基準が設定されます！！
薬剤散布の際は周囲への飛散に十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：イネミズゾウムシ	1
麦類：赤かび病	1
ナシ：黒星病，アブラムシ類，ナシヒメシンクイ	2
果樹共通：カメムシ類	4
促成キュウリ：べと病，褐斑病	4
促成トマト：灰色かび病	5
促成・半促成ピーマン：ヒラズハナアザミウマ	5
メロン：べと病	6
スイカ：つる枯病	6

【その他の病害虫】	6
水稲，カキ，メロン，促成キュウリ，促成トマト，スイカ	

・ 病害虫ミニ情報

ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤に対する感受性と防除について	7
農薬登録速報(3月)の概要	8

・ 病害虫資料室	10
----------	----

・ 今月の気象予報	11
-----------	----

・ テレホンサービス	11
------------	----

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 18 年 4 月 19 日現在のものです。
農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. イネミズゾウムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

気温がやや低く推移したため 4月25日現在、イネミズゾウムシの活動開始時期はやや遅く、水田での発生時期もやや遅いと予想される(表1)。

水田での発生時期が遅いと、イネの生育が進んでからの加害となるため、被害は少ない。

表1 本田での生息密度がピークに達する時期のめやす(4月25日現在)

予想地点	本年予想	平年
水戸	6/5	5/31
鉾田	6/5	6/1
土浦	5/28	5/25
龍ヶ崎	5/28	5/24
筑西	6/1	5/27

イネミズゾウムシの発育に有効な気温の積算値より予想した。

水田の立地条件、イネの栽培条件により発生時期は前後する。

[防除上注意すべき事項]

例年発生が多い水田では育苗箱施薬を行う(病害虫発生予報4月号ミニ情報参照)。とくに、越冬場所となる山林等に接した水田では発生が多い。

10株あたり8頭以上の成虫が認められた場合に本田防除を実施する。本田防除は5月下旬から6月上旬頃に行う。育苗箱施薬をしなかった水田では発生に注意する。

本田防除に使用できる主な薬剤としては、MR.ジョーカー粒剤、トレボン粒剤等がある。薬剤の使用に当たっては、水田から用水が流れ出さないよう、畦畔や水尻を点検し、水のかけ流しはしない。

苗の活着が悪い水田では成虫による葉の食害の他、幼虫による根の被害が大きくなる場合があるので発生に特に注意する。

発生時期の予測は4月25日現在であるので、今後の情報に留意する。

麦 類

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
遅い	平年並	県下全域

(麦類 赤かび病 続き)

[予報の根拠]

大麦の出穂期は平年より遅かった。小麦の出穂期も平年より遅いと予想される。
気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並か低く、降水量および日照時間は平年並で発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

本病原菌は、麦の開花期から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20以上と高いと本病の発生が多くなる。今後の気象には十分注意し、的確な防除を実施する。

薬剤防除の適期は、大麦では穂揃期、小麦では開花期（出穂後7～10日）である。麦の生育状況を正確に把握して適期防除に努める。

発病の好適条件が続く場合などは、1回目の薬剤散布の7～10日後に2回目の散布を行う。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意する。本病は、過湿な圃場で発生が多いため、明きょ等の設置や点検を行い、排水対策に努める。また、収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため、適期収穫に努める。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在、発病花そう率は、県北、県南、県西地域いずれも平年並であった。発生地点率は、県北、県西地域が平年並で、県南地域は平年よりやや高かった。
黒星病の感染に好適な時期に降雨があった。

[防除上注意すべき事項]

ナシ黒星病菌の越冬量は、例年より多いと推測されるので、ほ場での発生や今後の情報に注意する。

果そう基部病斑は、葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第果そうごと除去し、地中深く埋める。

発病の多い圃場では、発病果そうを除去後、防除暦に基づき、薬剤防除を確実に実施する。薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。なお、薬剤散布にあたっては周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行う。

薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌の出現を回避するため、DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則3回以内に抑える。

2. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	やや少ない	県下全域

(ナシ アブラムシ類 続き)

[予報の根拠]

4月下旬現在，寄生新梢率及び発生地点率は平年より低い。
 4月下旬現在，黄色水盤（笠間市）への飛来は平年より遅く，飛来数は平年より少ない。

[防除上注意すべき事項]

園内をよく観察し，発生を認めた場合は葉ごと取り除く。薬剤散布は，発生密度の低いうちに防除暦に基づいて行う。なお，薬剤散布にあたっては周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行う。

薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤抵抗性アブラムシ類の出現を避けるため，殺虫効果の高い薬剤を防除適期に使用するなどして，少ない散布回数で高い効果が得られるようにする。

3. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，地区予察ほ場（小美玉市，石岡市，土浦市）でのフェロモントラップへの誘殺数は，やや多い~多い。

4月下旬現在，園芸研究所（笠間市）でのフェロモントラップへの誘殺は平年より早く，誘殺数は平年より多い（図1）。

[防除上注意すべき事項]

コンフェューザーNを設置する園では，設置前にシンクイムシ類の防除を実施する。

越冬世代成虫の発生量が多いため，ほ場での発生状況や今後の情報に注意する。

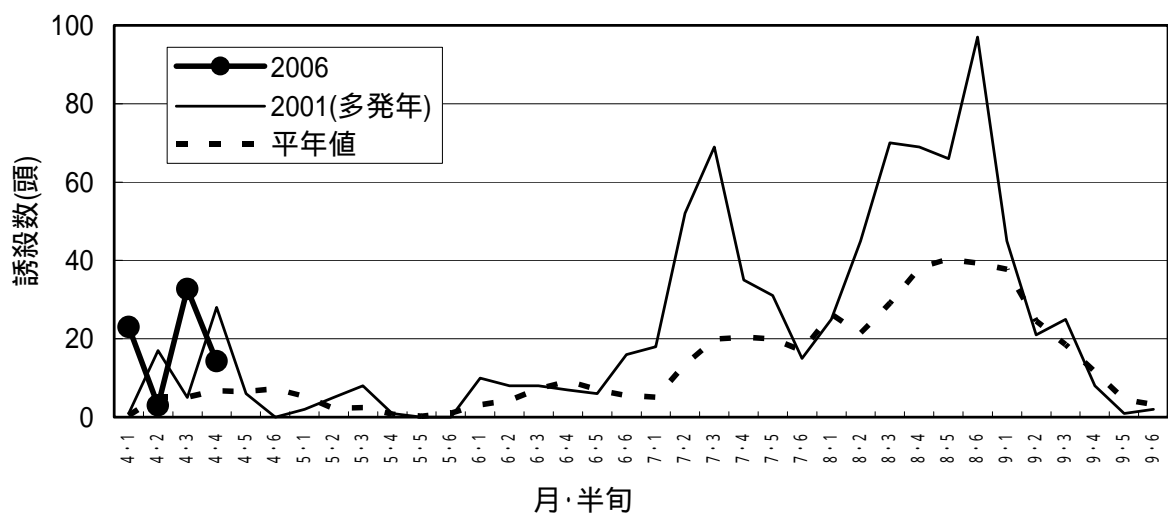


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ誘殺状況（園芸研究所）

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

チャバネアオカメムシの越冬量は、平年より多い(表1)。

表1 チャバネアオカメムシの越冬量

地域	地点数	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	平均値
県北	24	0.0	1.7	1.6	0.2	22.4	0.3	3.6	0.1	0.1	21.7	3.4
鹿行	9	0.2	0.7	0.6	0.2	2.7	0.0	0.7	0.0	0.1	1.8	0.6
県南	6	3.3	2.3	3.6	0.0	1.7	0.5	0.3	0.8	0.0	0.5	1.4
県西	3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.1
全県	42	0.7	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	2.1

注：地点当たり落葉 30 リットル中の平均虫数

[防除上注意すべき事項]

ウメの果実やナシの幼果では、越冬成虫による被害を受ける恐れがある。例年5月に入ると飛翔して活動を始めるため、園内の発生に注意する。

ナシやカキ・リンゴにおいては、今後の情報に注意する。

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在、発病葉率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は、発生が増加する傾向にあるため注意する。

ハウス内が高温多湿になると発生しやすくなるので、十分な換気に努める。

まん延すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。

薬剤散布は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。

2. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い~多い	県下全域

(促成キュウリ 褐斑病 続き)

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病葉率，発生地点率とも平年よりやや高い。
これまでの調査から，4月の発生量が多い年は，5月の発生量も多い傾向が認められる。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は，発生が増加する傾向にあるため注意する。
罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。
ハウス内が多湿になると発生しやすいため，適切な換気に努める。
薬剤散布は，薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病果率，発病株率，発生地点率はいずれも平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
罹病部は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。
薬剤散布は，薬液の乾きやすい晴れた日の午前中に行う。なお，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

促成・半促成ピーマン

1. ヒラズハナアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

4月下旬現在，寄生花率は促成栽培で平年並，半促成栽培では平年よりやや高い。
発生地点率は，半促成栽培で平年より高い。
今後，気温の上昇に伴い，ハウス内は発生を助長する条件が続く。

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
薬剤散布は，薬液が葉裏や花にもかかるよう丁寧に行う。
薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

メロン

1. ペと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病葉率・発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，適切な換気に努める。

罹病部は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は，薬液の乾きやすい晴れた日の午前中に行う。なお，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

スイカ

1. つる枯病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病葉率，発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

ハウスやトンネル内が多湿にならないよう十分に換気を行う。また，圃場の排水を良好にする。

過繁茂にならないよう適切な管理を行い，通風と日当たりを良好にする。

薬剤散布は，薬液が株元，茎，葉のいずれにも良くかかるよう丁寧に行う。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	イネドロオイムシ	-	前年多発した水田では，育苗箱施薬を行う（病害虫発生予報4月号ミニ情報参照）。
	イネヒメハモグリバエ	発生量： 平年並～やや多い	移植が早い水田や，移植期の天候が不順で，苗の活着が遅れたようなときに被害が出やすい。
カ キ	カキクダアザミウマ	発生量：平年並	4月下旬現在，発生を認めない。 新葉が巻き込む被害が認められたら，直ちに防除を行う。
メ ロ ン	つる枯病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
メロン (続き)	菌核病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並	4月下旬現在，平年並の発生である。トマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介するので，後作の抑制トマトへの伝播を防ぐため防除を行う。
促成 キュウリ	コナジラミ類	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成 トマト	輪紋病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年より多い発生である。
スイカ	炭そ病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。ハウスやトンネル内が多湿にならないよう十分に換気を行う。
	ハダニ類	発生量：平年並	4月下旬現在，平年並の発生である。

・病害虫ミニ情報

ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤に対する感受性と防除について

ナシに寄生するアブラムシ類を対象に，平成17年版病害虫防除暦に採用している薬剤に対する感受性検定を行いました。その結果と防除上の注意点についてお知らせします。

【検定方法】

平成17年6月中旬に，県内6地点のナシ園からワタアブラムシまたはユキヤナギアブラムシの無翅成虫を採集し，検定に供試しました。検定試験は，成虫を薬液に10秒間漬ける虫体浸漬法によって行いました。薬液に浸漬した供試虫はナシ葉片上に移して20条件下で飼育し，24時間後の補正死虫率を求めました。

【結果】

ナシのアブラムシ類に対して，イミダクロプリド水和剤(アドマイヤー水和剤)，DMTP水和剤(スプラサイド水和剤)，ダイアジノン水和剤(ダイアジノン水和剤34)，チアクロプリド水和剤(バリアード顆粒水和剤)は，いずれも高い殺虫効果が認められました(表1)。

表1 各種薬剤に対するアブラムシ類の薬剤感受性(24時間後の補正死虫率(%))

供試薬剤	希釈 倍数	採集 地点	筑西市 A	筑西市 B	下妻市	八千代町	石岡市	土浦市
		種類 ¹⁾	ワタ	ワタ	ワタ	ユキナギ	ユキナギ	ユキナギ
ミダクワドリ [®] 水和剤	1,000		100	100	100	100	100	100
DMTP 水和剤	1,500		100	100	100	100	100	100
ダ イジ [®] ノ水和剤	1,000		100	100	100	100	100	100
チアコ [®] リド [®] 水和剤	4,000		97	100	100	100	100	100

¹⁾ワタ：ワタアブラムシ，ユキ：ユキヤナギアブラムシ

供試24時間後の補正死虫率(%)を示した。

補正死虫率(%) = {(対照区の生存虫率 - 処理区の生存虫率) / 対照区の生存虫率} × 100

【防除対策】

アブラムシ類は増殖スピードが早いため、発生状況に注意し、発生初期に十分な防除を行うことが大切です。

アドマイヤー水和剤、ベストガード水溶剤、モスピラン水溶剤、バリアード顆粒水和剤及びダントツ水溶剤等のネオニコチノイド系剤は、薬剤感受性の低下を防ぐために、年間の合計使用回数を2回までとしてください。

アブラムシ類に対する殺虫効果が低下した薬剤を散布すると、アブラムシ類が十分に防除されないだけでなく、薬剤に弱い天敵昆虫などを殺してしまうため、結果的に薬剤を使う前よりアブラムシ類の生息密度が増加することがあります。薬剤散布後は殺虫効果を確認し、次回以降の防除の参考にしてください。

なお薬剤散布の際には、丁寧に行い、周辺作物への薬剤の飛散(ドリフト)に十分注意してください。

農薬登録速報(3月)の概要

平成18年3月期間中(3/1~3/31)に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規> デラウスダントツL箱粒剤，ブイゲットプリンスバリアードL粒剤，ブラストップダントツフロアブル，協友アディオフロアブル，協友アディオ水和剤，協友ラブサイドエアー水和剤，協友ラブサイドフロアブル，協友ラブサイドペフラン粉剤DL，協友ラブサイドモンセレンフロアブル，三共ブラストップダントツフロアブル

変更> Zボルドー，アグレプト液剤，アグロスリン乳剤，アタッキン水和剤，アミスター10フロアブル，アルバリン粒剤，アルバリン顆粒水溶剤，エムダイファー水和剤，エンバーMC，オンリーワンフロアブル，カネナカ印石灰硫黄合剤，カヤクダブルストッパー，カルモック，キング石灰硫黄合剤，クミアイアグロスリン乳剤，クミアイコテツフロアブル，クミアイトップジンM水和剤，クミアイラピライト水和剤，グリーンダイセンM水和剤，コサイドDF，コテツフロアブル，サンケイエムダイファー水和剤，サンケイ石灰硫黄合剤，ジェイエース水溶剤，シバンパフロアブル，ジマンダイ

セン水和剤，スコア顆粒水和剤，スタークル粒剤，スタークル顆粒水溶剤，ダイブフロアブル，タチガレン液剤，タチガレン粉衣剤，タチガレン粉剤，ダブルストッパー，チオノックフロアブル，ティベック，デルフィン顆粒水和剤，トップジンMオイルペースト，トップジンMゾル，トップジンMペースト，トップジンM水和剤，トップジンM粉剤，トリフミンジェット，トリフミン水和剤，ネキリトンK，バイエルタフシーバフロアブル，バイレトン水和剤5，パダン粒剤4，ハチハチフロアブル，ハチハチ乳剤，パロックフロアブル，ビスダイセン水和剤，ビルダースタークル箱粒剤，ベンレート水和剤，ホーマイコート，ホクコーオンリーワンフロアブル，ホクコーゲッター水和剤，ホクコースタークル粒剤，ホクコースタークル顆粒水溶剤，ホクコートトップジンMゾル，ホクコートトップジンM水和剤，ホクコートトップジンM粉剤，ホクコービルダースタークル箱粒剤，ホクコーフェスティバルC水和剤，ホクコーポリオキシシンAL水和剤，ボタニガードES，ボトピカ水和剤，ポリオキシシンAL水溶剤「科研」，ポリオキシシンAL水和剤，ポリオキシシンAL水和剤「科研」，モスピランSL液剤，モスピラン水溶剤，モンカットフロアブル40，モンセレン顆粒水和剤，ヤシマゲッター水和剤，ヤシマコテツフロアブル，ヤシマトップジンM水和剤，ヤシマトップジンM粉剤，ヤシマトリフミン水和剤，ヤナイ石灰硫黄合剤，ライトニング，ラビサンスプレー，ラビライト水和剤，ラリー水和剤，ランマンフロアブル，リプレースMC，ルミライト水和剤，塩山石灰硫黄合剤，家庭園芸用トップジンMゾル，海野石灰硫黄合剤，宮内石灰硫黄合剤，金鳥デランT水和剤，細井石灰硫黄合剤，三井東圧アルバリン粒剤，三井東圧アルバリン顆粒水溶剤，三共フロンサイド粉剤，三共モンセレン顆粒水和剤，三共リゾレックスH粉剤，三菱ハチハチ乳剤，住化ゲッター水和剤，住化リゾレックスH粉剤，新富士トリフミンジェット，石原アオバ液剤，石原トリフミン水和剤，石原フロンサイド粉剤，大塚石灰硫黄合剤，日産モンカットフロアブル40，日曹ゲッター水和剤，日曹コテツフロアブル，日曹デランT水和剤，日農アグロスリン乳剤，日農トップジンM水和剤，日農ハチハチフロアブル，日農ポリオキシシンAL水和剤，日農モスピランSL液剤，日農モスピラン水溶剤，明治ビルダースタークル箱粒剤，余市組合石灰硫黄合剤

除草剤等

新規>GFベンポール粒剤，サンダーボルト007AL

変更>GF草退治粒剤，JAミスターホームラン1キロ粒剤51，JAミスターホームラン1キロ粒剤75，JAミスターホームランドLジャンボ，SDSイネエース1キロ粒剤，アグロマックス水和剤，イネエース1キロ粒剤，イネグリーンD1キロ粒剤51，ウエスフロアブル，ウリホス1キロ粒剤，ウリホスジャンボ，ウリホスフロアブル，ウリホス粒剤10，ウリホス粒剤15，キングスター，クサカリン粒剤25，クサカリン粒剤35，クサダウンフォルテ，クサトッタ1キロ粒剤，クサトッタ粒剤，クサホープ95D粒剤，クサホープD粒剤，クサホープ粒剤，クミアイクサホープ95D粒剤，クミアイリワード粒剤，グリホエキス液剤，ゴゴサン細粒剤F，こっぴみじん，コンパカレール液剤，サンダーボルト007，サンバード粒剤，サンフロン液剤，タスクDF，タッチダウンiQ，デュボンシンバー，デュボンゾーバー，ナイスショットジャンボ，ネコソギX粒剤，ネコソギトップ，ハープ・ニート液剤，ハープラック顆粒水和剤，ハイバーX粒剤，ハイバーX粒剤1.5，ハイフウノン液剤，バスタ液剤，バナフィン粒剤2.5，プリグロックスL，ホームランキングLフロアブル，ホームランキングフロアブル，ホクコーイネグリーンD1キロ粒剤51，ホクコーダッシュワン1キロ粒剤，ホクコーホームランキングLフロアブル，ホクコーホームランキングフロアブル，ホクコーミスターホームラン1キロ粒剤51，ホクコーミスターホームラン1キロ粒剤75，ホクコーミスターホームランドLジャンボ，ホクコーミスターホームランLフロアブル，ホクコーミスターホームランフロアブル，ホクコーラクリーンジャンボ，ホクコーリードゾン粒剤，マイゼット，ミスターホームラン1キロ粒剤51，ミスターホームラン1キロ粒剤75，ミスターホームランドLジャンボ，ミスターホームランLフロアブル，ミスターホームランフロアブル，モンサントラウンドアップ，ヤシマカルナクス，ヤシマエイトパンチ粒剤，ヤシマエスドラム粒剤，ラウンドアップ，ラウンドアップハイロード，ラウンドアップ除草スプレー，ラムロード，三共スラッシャ1キロ粒剤，三共スラッシャ粒剤，三共の草枯らし，三共リワード粒剤，石原タスクDF，日農バスタ液剤

展着剤

変更>タマジェット

失効農薬

ICIフジグラス粒剤17, ICIフジグラス粒剤25, イネグリーン1キロ粒剤75, カスラブエルサンバッサ粉剤DL, カヤクサターンバアロ乳剤, キタジンP乳剤, クミアイポリキャプタン水和剤, クミアイランガードミブシン粒剤, ジベレリンTM顆粒, トモノジプロム乳剤, トモノスプレースチッカー, トモノ除虫菊乳剤3, バイエルイネグリーン1キロ粒剤75, バイエルイネグリーンD1キロ粒剤51, バイエルグラビック1キロ粒剤, バイオセーフ, ビームスミトレボン粉剤DL, ビームランガード粉剤5DL, ホクコーカスラブバリダルーバン粉剤DL, ホクコールーバントレバリダ粉剤DL, マイキラー粉剤, ヤシマヒノトレボン粉剤DL, ヤシマラブサイドオフトレボン粉剤DL, ラブサイドエビセクトトレボン粉剤DL, ラブサイドスターナトレボン粉剤DL, ラブサイドモンガードスターナ粉剤DL, ルーバントレバリダ粉剤DL, 家庭園芸用トモノスミチオン乳剤, 家庭園芸用トモノマラソン乳剤, 三共ウィードレス1キロ粒剤51, 三共ラクダーLフロアブル, 三共ラブサイドベフランバッサ粉剤DL, 三菱油化センテ粒剤, 新リノー, 日産ガンバルーチ1キロ粒剤, 日産ラブサイドオフトレボン粉剤DL, 武田グラビック1キロ粒剤, 明治泡の除草剤

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

・病害虫資料室

病害虫防除所ホームページ上で、写真をご覧いただけます。

ネギ

さび病

被害のようす：主に葉身に発生する。はじめ、紡錘形～楕円形でオレンジ色の少し盛り上がった斑点を生じる。病斑はやがて表面が縦に破れ、内部からオレンジ色の粉状の胞子（夏胞子）が飛散する。激発すると、葉身全体に多数の病斑を生じ、古い葉から枯死する。

春期と秋期が比較的低温で、降雨が多い場合に発生しやすい。

病原菌の生態：病原菌は冬胞子または夏胞子の形で被害植物についたまま越冬し、第一次伝染源となる。翌春、夏胞子を形成し、これが飛散して伝染が起こる。夏胞子の発芽適温は9～18℃、夏胞子の感染および発病に最も好適な気温は15～20℃で、最適湿度は100%である。

防除のポイント：多発生状態での薬剤防除の効果は低いので、発病初期の防除を徹底する。肥料不足や過多になると発病しやすいため、生育状況に合わせて適切な肥培管理を行う。伝染源となる被害茎葉、株などは圃場外へ運び出し速やかに処分する。

写真1：葉の病徴

べと病

被害のようす：主に葉身に発生する。はじめ黄白色で健全部との境界が不明瞭な不定形の病斑を生じ、そこに灰白色の薄いかびが生える。その後、かびは暗緑色あるいは暗紫色に変わり病斑部の周囲は明瞭となる。症状が進むと、被害部は黄白色あるいは灰白色にしおれて枯れる。

春先に気温が高くて降雨が多い場合や、梅雨期や秋雨期が冷涼で曇雨天が続く場合に多発しやすい。

病原菌の生態：病原菌は卵胞子や菌糸の形で被害植物についたまま越冬する。翌春、これら病斑から分生子を形成して第一次伝染源となり、この分生子が飛散して伝染が起こる。分生子の形成適温は13～15℃、発芽適温は10℃前後で、湿度が90%以上の時、よく形成される。また、分生子の寿命は乾燥状態では短い（1～3日）。

防除のポイント：発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況および気象状況に応じて薬剤散布を行う。伝染源となる被害茎葉、株などは圃場外へ運び出し速やかに処分する。前作で多発した圃場では、連作を避ける。

写真2：葉の初期の病徴

写真3：多発圃場

黒斑病

被害のようす：主に葉身に発生する。はじめ淡褐色の紡錘形の病斑ができ、やがて暗紫色になり、くぼむ。その後、病斑は同心輪紋状になり、すす状のかびが発生する。症状が進むと、病斑は拡大し、そこから上部が枯れたり、上下に枯死して折れ曲がる。

気温が比較的高く、降雨が多い場合に多発しやすい。梅雨期や秋の台風時に降雨と風による傷が伴うと特に発生しやすい。

病原菌の生態：病原菌は菌糸や分生子の形で被害植物についたまま越冬し、第一次伝染源となる。翌春、分生子を飛散し、これにより生じた病斑上に分生子が形成され、これが飛散して伝染する。

分生子の発芽適温は24～27℃である。

防除のポイント：発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況および気象状況に応じて薬剤散布を行う。肥料不足や過多になると発病しやすいため、生育状況に合わせて適切な肥培管理を行う。伝染源となる被害茎葉、株などは圃場外へ運び出し速やかに処分する。

写真4：葉の病徴

・今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 4月22日から5月21日)

気象庁(4月21日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	40	40	20
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か低いでしょう。降水量は平年並でしょう。日照時間は平年並でしょう。

<1週目の予報> 4月22日(土曜日)から4月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か低い

<2週目の予報> 4月29日(土曜日)から5月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

<3週目から4週目の予報> 5月6日(土曜日)から5月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

・テレホンサービス

4月から普通作物、園芸作物を統一します。24時間年中無休で情報を提供しています。病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321、または029(226)6131 (情報の内容はどちらも同じです)

今後の内容予定

5月上旬 麦類の赤かび病対策及びナシの病害虫について

5月中旬 小麦の病害対策について

5月下旬 水稲及びナシの病害虫防除について

6月上旬 水稲及びナシの病害虫発生状況と防除対策について